

価値創造ストーリー

価値創造の歴史

1949年にブレーキオイルメーカーとして創業して以来、幅広い分野に事業領域を拡大し、様々な変革を成し遂げてきました。私たちはこれからも、安心・安全・快適を提供し続け、次のステージに踏み出します。

国内売上高 海外売上高

カーケミカル
1949年

産業タイヤ
1970年

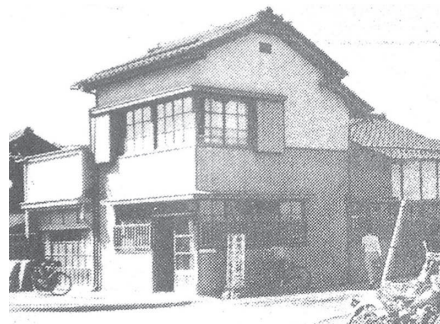
カーケア用品
1977年

海外進出
1980年

住設・建材
1992年

NEXT
STAGE

1949



1949年5月
中央化学工業株式会社 創立

ブレーキオイル メーカーとして誕生/創業

悲しい事故を無くしたいという思いから、「不撓不屈」の精神でブレーキオイルを開発



1970

ゴム事業 (現 産業タイヤ事業)に進出

新たな事業の柱を育てるため、新分野である産業用ウレタンゴム車輪を開発



1980~1990

海外進出

世界品質の技術を糧に、時代の流れを先読みし、大きな市場を目指し米国に現地法人を設立。その後、台湾、英国、タイに現地法人(または支店)を設立



1980年12月
米国現地法人 設立

1981年9月
台湾現地法人 設立

2000~

グローバル供給体制の強化

更に世界中で製品を供給できる体制を広げるために、中国(5拠点)、メキシコ、ブラジル、ドイツに現地法人、マレーシアに合弁会社を設立



2005年5月
中国広東省佛山現地法人 設立

2017年7月
ドイツ現地法人 設立

1977

カーケア用品事業に進出

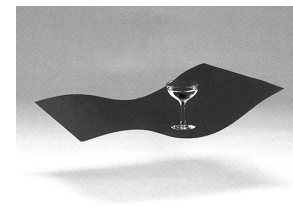
これまで培ってきたカーケミカルのブランド技術を活かして、車が庶民の足となった時代背景の中、一般ユーザー向けのカーケア用品事業に進出(現カーケミカル事業に統合)



1992

制振事業 (現 住設・建材事業)に進出

制振、吸音・遮音などカーケミカルで培った技術を、安全で快適な住環境づくりに展開



2007~

環境配慮型製品の開発

今まで培ってきた技術を活用し、環境に配慮した製品を開発、販売



2007年6月
下田エコテック(株)を子会社化し、グリーストラップ(油脂分離阻集器)の設計・製造・販売を開始

2018年
オイルパニッシュ(油脂分解微生物製剤)の開発、販売を開始

価値創造ストーリー

価値創造プロセス

これまで培ってきた技術的成果を活用し、人々の豊かな暮らしに貢献する新たな価値を創造し続けます。



外部環境

- ・モビリティ業界の変革
- ・気候変動
- ・DXによるビジネス環境の変化
- ・物売りからコト消費へ
- ・顧客ニーズの多様化
- ・少子高齢化

技術・経営資本*

- 技術・研究員 **78名**
- 国内製造拠点 **8拠点**
- 海外拠点 **8か国、12拠点**
- 取得特許件数 **212件**



シーシーアイ(株) 本社 技術研究所

※数値は2023年3月末時点
技術・研究員、取得特許件数
(シーシーアイ)

「新しい」を共創し、世界に安心・安全・快適を提供します

Change Create Innovate

変革への挑戦 お客様目線で創意工夫 全員で経営革新



社会課題へのアプローチ

- カーケミカル事業本部**
 - 次世代モビリティ製品の開発
 - 環境配慮型製品の開発
 - カーシェアを見越した清掃・手入れの簡略化
- 住設・建材事業部**
 - 静かな住環境の提供
 - 現場施工効率化
 - モビリティ領域へ静音技術の展開
- 産業タイヤ事業部**
 - 環境配慮型製品供給
 - 抗菌性、耐久性、導電性、静音、省エネルギー
 - 長寿命化
 - ホイールリユース(巻き直し)
- 研究開発部**
 - 新たな技術を駆使した環境配慮型製品、サービスの提供
- コーポレート部門**
 - どこでも働けるシステム・環境の構築
 - 従業員エンゲージメントの向上

ESG 優先課題 (2030年目標)

- 12** つくる責任 つかう責任
 自社製品の循環型社会の構築
 脱石油由来原料への代替
- 9** 産業と技術革新の基盤をつくろう
 調達・現場施工・取り壊しまでの廃棄物の削減
- 3** すべての人に健康と福祉を
 環境負荷物質の使用量削減
- 13** 気候変動に具体的な対策を
 低CO₂製品製造の実現 (エネルギーマネジメント)
- 8** 働きがいも経済成長も
 多様な働き方の推進

目指すべき社会 (2050年)

人々の豊かな暮らしの実現

- 【社会】**
 - 安心・安全・快適なモビリティ環境の提供
 - 静かな空間の創造
 - 健康、生活の質向上
- 【職場】**
 - 多様な働き方の実現



世の中にない新たな価値の創造

- 新製品、サービスの創出



持続可能な社会への貢献

- カーボンニュートラルの実現
- サーキュラーエコノミーへの移行



価値創造ストーリー

事業部の取り組み

事業本部、各事業部におけるサステナビリティ経営の実現に向けた取り組みを紹介します。

カーケミカル事業本部



常務取締役 カーケミカル事業本部 本部長
大澤 久吉

業界に先駆けた製品開発によって 環境問題の解決に貢献

当本部は、エンジンクーラント、ブレーキフルードに関する数多くのノウハウの蓄積と、海外のR&D拠点を含めた研究開発体制により、お客様ニーズに沿った製品開発を推進しています。また、各製品は、ITを活用した厳しい管理体制のもとで高い品質を維持しています。現在、カーボンニュートラル(CN)の環境配慮の機運が高まる中、新たなエネルギーや技術に対応した製品開発が求められています。当本部も、自動車のEV化が進展する中、業界に先駆けた製品開発によって環境問題の解決に貢献したいと考えています。また、ESG施策においては、BEV、FCV用製品の開発、サーキュラーエコノミーに資する長寿命製品の開発やリサイクルに取り組むとともに、CSR調達も積極的に推進しています。更に、喫緊の課題であるCO₂排出量削減の取り組みにおいても、製造工程、製品の原点から見直し、環境配慮型製品で社会に貢献していく考えです。

産業タイヤ事業部



ESG施策を重視し、時代に求められる 製品・サービスを提供

当部は、高品質なウレタンタイヤの重要な要素であるウレタンと芯金の接着技術に高い優位性を有しています。ウレタンタイヤが使用される環境が多様化するに伴い、耐久性に関する要求も厳しくなり、当社では耐久性向上を図るため、ウレタンと接着に関する研究・開発を他社に先駆けて取り組んできました。2022年度に策定した事業部別戦略では、ESG施策の推進を重視し、環境負荷物質削減の取り組みに加え、CO₂排出量削減においては設備、工程改善によって着実に進展させるとともに、生産性向上も実現しています。また、紙、梱包材、原料などの廃棄物の削減とともに、不良率の削減にも注力しています。お客様に対しては、ウレタン巻き直しによる金属製品の再利用を提案するなど、環境配慮型製品・サービスの開発も強化しています。今後も、時代に求められる高品質な製品・サービスの提供によって信頼される企業を目指していきます。



執行役員 産業タイヤ事業部長
村瀬 博宣

住設・建材事業部



執行役員 住設・建材事業部長
酒向 宏和

安心・安全かつ環境にも配慮した製品・サービスをお届けし、 豊かな住環境づくりに貢献

当部は、住宅向け防音排水管を提供し、静かで快適な住環境の提供、現場施工の効率化に加え、コスト低減、時間短縮に貢献する製品開発に努めています。今後、少子高齢化で市場が縮小する中でも、高品質の維持や、付加価値の高い周辺製品、設計加工サービスなどを提供することで成長を目指します。ESG施策においては、工場の稼働精度の向上に努め、廃棄物の削減に注力するとともに、製造工程で発生するPETシュリンクフィルム破砕物の回収、再利用をメーカーと共同で取り組み、資源循環型のビジネス構築に取り組んでいます。重要課題であるCO₂排出量削減においては、生産性の向上、製造ラインの効率化を図ることで、着実に推進するとともに、省エネも実現しています。今後も、お客様の困り事に寄り添いながら、次世代事業の柱の確立に努め、予測の難しい環境にあっても、安心・安全で、環境にも配慮した高品質な製品・サービスをお届けしていきます。

研究開発部



次世代の事業開発と環境配慮型製品の開発、 脱炭素をテーマとした研究を推進

研究開発部は、次世代を担う新たな事業開発と各事業の戦略推進の支援を行っています。加えて、環境配慮型製品の開発、脱炭素をテーマとした研究も推進しており、石油化学製品の代替としてバイオ由来の製品開発にも取り組み、2030年の商品化を目指しています。また、大学との共同研究に加え、若手研究者や学生を支援したいとの想いから、2021年度より「研究助成プログラム」を開始しました。幅広い視野で研究テーマを選定し、研究活動を支援するもので、2022年度は名古屋大学、岐阜大学で7件のプログラムを実施しています。ESG施策においては、改善活動などにKPIを設定し、1年毎に管理、見直しを実施しています。今後は、R&D部門として投資額も拡大し、今の世の中にない製品の開発に取り組むとともに、つねに挑戦する意気込みと情熱を大切に、研究開発方針である「化学は世のため、人のため。」の実現を目指していきます。



取締役 技術統括・研究開発部担当
堀 道弘